

# 市長にインタビュー

— 誰もが輝いて生きる社会をつくるために

今回は、釘宮磐大分市長に、ご自身の子ども時代の話をお聞きしながら、「今だからこそ必要なもの」や「今後の男女共同参画についてのお考え」などについて伺いました。

子ども時代には、どんな遊びをしていたのでしょうか。

戦後間もない頃のことですから、ものの無い時代です。ですが、無いなら無いなりに、カンけりをしたり



釘宮 磐 大分市長

大分市錦町出身。昭和22年生まれの56歳。三女の父親。趣味は野球。夏の県予選でベスト4に入るなど大分舞鶴高等学校時代に、3塁手として活躍。

三角ベースの野球をしたりして、毎日が暮れるまで近所の友達と遊んでいました。時には一升瓶を集めて売りに行き、その売り上げで駄菓子を買って、皆で食べたりにしていましたよ。遊びの中には工夫があり、友達関係の中には暗黙のルールがあり、今問題になっているような陰湿なイジメなどはありませんでしたね。

現在は、その頃と比べて社会全体が大きく変わっています。今の子ども達にはどんな環境が必要だとお考えですか。

今はものがあり余っている時代です。そして昔と比べ、価値観も随分変わってきました。今の子ども達は「良い学校へ行き、良い成績を取り、良い会社に入ること」が幸せだという価値観で育てられている傾向にあります。

勉強は確かに必要ですが、実は感性を育てることも同じくらい大切なことです。人間には感性を司る右脳と、知性を司る左脳とがあり、このバランスを取ることは重要なこと、この家は指摘しています。そして、感性を育てるにはたくさん経験が必要。ですから、子育ての経験となる家庭はもちろんのこと、地域の人々との関わりの中で、多くの経験をさせてあげるべきだと私は考えています。

連日のように児童虐待の報道がなされていますが、大分市ではどのような取り組みをしているのでしょうか。

これほど腹立たしく、つらい事件はありません。

大分市では、各部署に入った情報を共有し、素早い対応がとれるよう体制を整えています。これは児童虐待だけではなく、ひきこもり、不登校、ドメスティック・バイオレンス（DV）など、家庭で起こる様々な問題に対応するものです。

このような悲惨な事件が起こらないことを願ってやみません。

男女共同参画の今後の展望についてお聞かせください。

女性の社会進出がようやく認められるようになったとはいえ、まだまだ女性の管理職などの数は少ないの



ドゥマーン編集委員とにこやかに…

が現状です。しかし、だからと言ってただ数合わせのように、議員の半数を女性にするべきだとかいうのはナンセンス。ただ、女性が自分の能力を、男性と同じように発揮できる環境を整備することで、活躍の場を広げるべきだと考えています。そのためにも、女性の方にはぜひ、誰かが何かをしてくれるのを待つのではなく、自ら意思表示をして、要望やアイデアをどんどん出して欲しいですね。それを市政に反映していければと考えています。